



五中だより

令和 8 年 6 月 2 日
小平市立小平第五中学校
校長 相澤 史彦
小平市小川町 1 - 7 9 8

運動会を終えて

校長 相澤 史彦

5月30日(土)、雲ひとつない初夏の晴天のもと、第56回運動会を実施しました。予定された競技はすべて滞りなく行われ、生徒の活躍によって充実した一日となりました。閉会式では伝えきれなかった思いも含め、ここで振り返ります。

今年度は、生徒の健康と安全を第一に考え、昨年度から種目や運営方法を一部見直しました。競技は主に団体種目とし、運動が得意な生徒も苦手な生徒も無理なく参加できる内容としました。また、縦割りで色別団を編成し、1～3年生が協力し合うことで、学年を越えたつながりや自主性を育むことをねらいとしました。

当日は、実行委員を中心に生徒が意欲的に取り組み、スローガン「Full power ～熱い心絆(ハート)で笑顔を掴む～」を体現する姿が随所に見られました。入場行進では、指揮者の力強い号令のもと、旗手を先頭に全校生徒が一体となって本部に向かう姿に胸を打たれました。全員リレーではバトンをつなぐ生徒の真剣な表情が印象的でした。ボールリレーでは互いに声を掛け合いながら協力している姿が見られました。学年種目(1年・8組中縄リレー・2年・8組大縄跳び・3年大ムカデ)では、練習の成果を発揮し、学級が一致団結して挑む姿に大きな成長を感じました。競技後には達成感から笑顔を見せる生徒や、感極まって涙を流す生徒の姿も見られました。生徒会玉入れでは、楽しさの中にも主体性が光り、最後の選抜リレーでは校庭中に歓声が響き渡りました。

特に心に残ったのは、生徒が競技だけでなく応援にも全力を尽くしていたことです。時間が経過するごとに生徒たちの応援の熱が高まり、競技を終えた学年を温かく迎える場面が見られました。結果発表では、順位に関わらず互いの健闘を称え合い、同じ団の他学年の喜びを自分のことのように分かち合う姿が見られました。運動会を通して、多くの絆が生まれ、深まったことと思います。

この運動会が成功したのは、実行委員が中心となって全体を引っ張ってくれたこと、そして各係が責任をもって準備・運営にあたってくれたおかげです。また、どの学級にも仲間を支援、声をかけ、行動してくれた生徒がいたことと思います。支えてくれた仲間への感謝を忘れず、今度は自分が誰かを支える側として学校生活を送ってほしいと願っています。

本校の運動会は、昭和46年の第1回体育大会から半世紀以上続く伝統行事です。先輩方がかつて全力で競技したこの校庭で、今年度も全校生徒が力を尽くしました。時代とともに形は変わっても、生徒の「心の成長」を育む大切な教育活動として、今後も継続し、発展させてまいります。

運動会特集

5月30日（土）に運動会を開催しました。当日はよい天気にも恵まれ、多くの方にご参観いただきました。こだごさポーターのみなさまには受付や会場整備関係のご協力をいただきました。ありがとうございました。当日の様子の一部をお伝えします。



横断幕



入場行進



選手宣誓



生徒会玉入れ



1年・8組 中縄リレー



2年・8組 大縄跳び



3年 大ムカデ



選抜リレー



表彰式

実行委員長（福原）より

今年度の運動会も、多くの皆様のご協力のもと無事に終えることができました。

近年の酷暑の中、子どもたちの安全を確保しながらも、できるだけ多くの活躍の場を保障したいという思いで運動会づくりを進めてきました。種目や内容を見直して、活動時間の短縮をはかりながらも出場機会を増やすよう工夫したり、縦割り団組織を編成することで、子どもたちが学年を越えて関わり合い、仲間とともに成長できるようにしたり、内容の充実に努めました。

限られた時間の中でも、子どもたちがより多く活躍し、達成感や一体感を味わえる運動会を目指して取り組んできました。

当日は生徒が自分の競技だけでなく、仲間の活躍する姿を本気で応援し「仲間のために頑張りたい」という思いを胸に全力を尽くす姿が数多く見られました。うまくいったときにはともに喜びを分かち合い、思うような結果にならなかったときにも励まし合いながら支え合う姿はとても印象的でした。

こうした温かく活気ある運動会は、地域の皆様、卒業生、そしてこれまで五中に関わってきてくださった多くの方々に支えられて実現しています。この思いが今後も受け継がれ、本校の運動会が子どもたち一人ひとりの活躍の場として続いていくことを願っています。